



## 私の姉の生き方から学ぶもの

京都府・立命館宇治高等学校 1年 藤井 奈々

私には8つ年上の姉がいる。私は、私と姉の2人姉妹だ。けれども、私は姉と全く仲良くない。食べ物の好み、服装の趣味、その他の好きなことや生き方まで姉と私は真逆である。

金融と経済を考えるというテーマを見た時、真っ先に頭に浮かんだのが姉のことである。

どうして、ここで姉が出てくるかという、私が姉の生き方を見た時、どうも、無駄ばかりな気がするからである。姉は私が変わっていると言う。私は姉が変わっていると思っている。もし、私が世間一般の高校生として変わっていて、姉が一般的なら姉の姿を考えることで一般的な人の生活が見えるのではないかと思う。

では、「どうして姉が無駄ばかりなのか」を書いてみることにする。

まず、姉は今でもそうだが、お風呂に40分くらい入る。そのほとんどの時間、シャワーを流しっぱなしにする。両親がどんなに姉に注意しても、聞く耳をもたない。あれでどれだけ水道代が無駄になっているのだろうといつも思ってしまう。

ファッション雑誌をよく読んで、中学時代から流行を取り入れていて、確かに姉はおしゃれである。そのことは認める。安い服を次々に買って、1年くらい経つと、大きなゴミ袋に入れて捨ててしまう。

「もったいないなあ。」と母が口癖のように言っている。でも、姉は「もう着ないもん。」と言う。

高校に入って、姉がアルバイトをするようになった。すると、今度は次々と着払いでいろんなものが送られてきた。靴、コート、下着、化粧品、そして、アイドルの商品だ。そのたびに、母は「注文したならその時にお金を用意して私に渡しておきなさい。」と文句を言いながら宅配便の業者にお金を払った。





姉はインターネットや携帯で、安いと思うと次々に買い物をしてしまうのだ。いつでもどこでも見られる携帯電話は、買い物に行かなくてもどこにいても、物が買えてしまう。しかも、お金はその時なくてもだ。

買う時には欲しいなと思って、届くころにはそこまで欲しくないと思うものもあるらしい。

姉が大学生になった時には、携帯のネットオークションで要らなくなった参考書や服を売り出した。アイドルのチケットなんかは、6,000円位のものなのに、3万円という値段がついたこともあるそうだ。

あるときは、急に姉が英語に目覚め、TOEICの学習CDを申し込んだ。月々3,000円で学べるというもので、ある日、大きな荷物が届いた。参考書とCDが入っているものだった。最初は姉の部屋から英語の発音が聞こえてきて、英語を勉強しているなど小学生の私にも聞き取れたのだけれど、3か月も続かなかった。後に残ったのは1年分の1か月3,000円ずつの支払いだった。まだ入金できていませんというはがきも何度も家に届いた。

夏になると、クーラーの消し忘れ、電気の消し忘れはしょっちゅうだ。一度は名古屋に友達と旅行に出かけ、2日いなかった。母が姉の帰る日に部屋に入ると、クーラーがついていた。

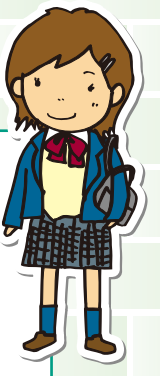
クーラーはまる2日ついていたことになる。最初、母は姉のいろんな無駄に対して、怒り狂っていたけれど、ついには、諦め気分で、「お母さんが死んだら分かる。」と言い出していた。

姉の中学から高校時代は、ジャニーズに狂っていた。部屋には大きなポスターが貼られ、祖父や祖母にねだって、CDやDVDを揃えまくった。コンサートにもいっぱい行っていた気がする。それが、無駄とは言い切れないし、私もたまに、行きたいと母に言うと、「頼むから、あんたはもう、お姉ちゃんと同じ人間にならんといて。」と言われた。

そんなこんなで、私は姉と仲良くないのである。

そんな姉も今年の春に大学を卒業し、就職活動にも成功して、現在は社会人になった。毎日遅くまで働いて帰ってくる。お金の管理ができているのかどうか、分からないけれど、最近姉は、水道の蛇口がしっかり閉まっていないと、「もったいない。」と言う。今までの姉では考えられない。そして、あんなに無駄なも





のばかり買っていた姉なのに、今では仕事が忙しくてあまり買い物にも行く時間がないらしい。携帯でのんびりネットショッピングをする余裕もなく、休みの日は一日家にいて寝ている。服もあまり買わなくなり、社会人になってからの姉はとても地味になった気がする。自分のお金で物を買うということがお金の大切さを教えてくれるのかもしれない。私には決してお小遣いをくれたりしないけれど。

東京の毎日新聞社のビルに、MOTTAINAIグッズを売っているお店がある。お店を覗いた時は閉まっていたので入ったことはないけれど、MOTTAINAIグッズがとてもかわいい。傘や風呂敷なんか置いてある。この言葉を見ながら、極端な姉を思い出す。MOTTAINAIは、ケニアのワンガリ・マータイさんの考えで始まった運動らしい。

母は今まで「いつか姉にも分かる時がくる。自分のやっていたことがどんなことだったか。」とよく言っていた。

社会人になって、姉は少しずつ自分のやっていたことを本当に考えているのだろうか。最近、姉は私が水を流しっぱなしにしながら歯を磨いていると、「もったいない。」と言う。今まで散々もったいないことをしてきたのは姉だと言うと、「今そんなことを言っているのではない。とにかく、蛇口を閉めなさい。」と言う。勝手な姉だどつくづく呆れながら、大人になるってこういうことなのかなとふと思った。

私の家では、姉妹はいつも妹の私が犠牲になってきた気がする。仲良くしなさいと言われても、どうもギクシャクした関係だ。

私が大人になれば、こんな姉とも仲良くなる日が来るのだろうか。

姉を見ていると、姉の働いただけの経済力に合わせて、社会が姉を作り変えている気がする。

